

別紙1-1

生徒について ～A先生へ～

名前	障害種	在籍	障害名	参加	配慮事項（抜粋）	〇組で配慮いただきたいこと
A	障がい種を記入	クラス名・特別支援学級担任名を記入	障がい名を記入	協力学級への参加の仕方を記入	<ul style="list-style-type: none"> 自分で学級の仲間に支援を求められることができる。周囲も手助けすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と本人の意向により、配慮事項以外は、〇組の生徒と同じように対応していただいで大丈夫です。今後、配慮をお願いしたいことが出てきたら、お伝えします。よろしくお願いします。
B					<ul style="list-style-type: none"> アレルギー：〇〇〇〇 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は、本人が〇組の中で普通に生活できることを臨んでいる。
C					<ul style="list-style-type: none"> 〇仲のよい子 〇〇〇〇 ▼苦手な子 〇〇〇〇 	<ul style="list-style-type: none"> 座席はなるべく出入りしやすい場所が良い。保護者は、本人が〇組の中で普通に生活できることを臨んでいる。

※生徒には、必ず教員か支援員がつきます。朝はB（特別支援学級担任）or C（特別支援学級担任）が〇組に入ります。

生徒について ～支援員さんへ～

名前	障害種	在籍	障害名	参加	配慮事項（抜粋）	〇組で配慮してもらうこと	通院	好きなこと	苦手なこと
A	障がい種を記入	クラス名・特別支援学級担任名を記入	障がい名を記入	協力学級への参加の仕方を記入	<ul style="list-style-type: none"> 本人は社会科に難しさを感じている。 自分で学級の仲間に支援を求めることができる。周囲も手助けすることができる。 別室でクールダウンすると落ち着く。 ※保護者と本人の意向は、自分でできることを増やしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と本人の意向により、配慮事項以外は、〇組の生徒と同じように対応していただく。支援者が観察して、A先生（協力学級担任）にお願いしたいことができた時点で、協力を依頼する。 	通院先の名前・通院の頻度について記入	ダンス	文章の内容理解
B					<ul style="list-style-type: none"> アレルギー：〇〇〇〇 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の願いとしては、みんなと同じ学力がつくようになってほしい。支援がなくても自力で行動できるようになってほしい。 		絵やイラストを描く。	人前で話をすること。 伝えたいことを的確に伝えること。
C					<ul style="list-style-type: none"> 〇仲のよい子 〇〇〇〇 ▼苦手な子 〇〇〇〇 	<ul style="list-style-type: none"> 座席はなるべく出入りしやすい場所が良い。保護者は、普通に〇組で生活することができるようになることを臨んでいる。 		短期記憶。目で見ただけで覚えること。覚えた情報を頭の中で整理、操作すること。	機械的な作業や識別を正確に速く行うこと。 視覚的なイメージを用いて考えること。

◆小学校では、BとCは国語と数学を取り出して指導していました。中学校では、すべて〇組に参加する形でスタートします。今後、実態に合わせて、授業への参加の仕方を変更することがあります。（本人・保護者と話し合いながら）

別紙2

学級	氏名	性別	説明者	説明者	記録
学級名	A		〇〇小学校 △△教諭	放課後等デイサービス〇 ○ △△さん	a
これまでの経緯	・就学前～現在までの経緯を簡潔に記入				
学校から	・学校での様子や保護者について聞き取った内容を記入				
放課後デイから	・放課後デイでの様子等、聞き取った内容を記入				
その他	・保護者の現時点での進路についての考え等を記入				
入学後の在籍	・入学後の在籍（障がい種名および通常学級）を記入				

別紙3-1

支援記録表（〇〇さん）

月 日 ()

・表をすべて埋めなくて大丈夫です。メモ程度で構いません。（欄に記入でなく、付せん等でも。）記録された内容（必要な部分）は、口頭や別紙にまとめたりして保護者にお知らせします。

	科目名、授業内容	○良かった点、有効な支援	×難しい点、気になった点、避けた方が良くいこと	・その他 (約束事や連絡事項)	支援者名
～ 1 校 時					
1 校 時					
2 校 時					
3 校 時					
4 校 時					
給 食					

◆ 4校時が終わったら、担任へ渡してください。（連絡帳に記入します。）

	科目名、授業内容	○良かった点、有効な支援	×難しい点、気になった点、避けた方が良くいこと	・その他 (約束事や連絡事項)	支援者名
5 校 時					
6 校 時					
帰 り の 会 ～					

支援記録表 (〇〇さん)

月 日 ()

別紙3-2

月 日の週

教科	宿題や課題 が出た日	内容	期日	実態
国語	日()		日()	
	日()		日()	
	日()		日()	
	日()		日()	
数学	日()		日()	
	日()		日()	
	日()		日()	
	日()		日()	
理科	日()		日()	
	日()		日()	
社会	日()		日()	
	日()		日()	
英語	日()		日()	
	日()		日()	
	日()		日()	
	日()		日()	

※技芸教科は今まで通り、別紙に記載してください

別紙4

学校生活の確認事項

年

組

氏名

※灰色で塗られている部分に記入し、 / () の懇談時持参してください。

登下校	・あてはまるものに○をつけてください。登下校に関して伝えたいことあれば記入してください。												
	登校	徒歩・自転車・自家用車											
	下校	徒歩・自転車・自家用車・福祉サービス（事業所名： ）											
登下校について伝えたいこと													
進路	現在の希望に○印をつけてください。					高等学校・高等支援（養護）学校・その他							
	具体的な学校名があれば記入してください。（その他の場合も記入してください。）												
	学習に関して伝えたいこと												
学習	協力学級での授業	教科	国	数	英	理	社	音	美	体	技家	道	※協力学級での授業について、テストについて、当日担任と確認します。
		協力学級											
		副教材											
	テスト	定期テスト	受ける ・ 受けない										
		学力テスト	受ける ・ 受けない										
進路に関して伝えたいこと													
身体 の 状 況	アレルギー・疾患等	ある・なし		(あるの場合詳細)									
	服薬の状況	ある・なし		(あるの場合詳細)									
	現在行っている治療・通院先												
関係 機 関 と の 連 携	相談事業所名 担当者名	相談事業所名											
		担当者名											
	福祉サービス 利用状況	放課後等デイ											
		ショートステイ											
		その他											
手帳等について (次回更新日)	療育手帳等	ある () ・ ない ・ 取得予定											
	次回更新日	年 月 日											
その他	相談したいこと												

記入日 年 月 日

	令和	年	月	日
	令和	年	月	日

個別の教育支援計画 【 学校 】

ふりがな 本人氏名		性別		生年月日	H	年	月	日
保護者氏名	続柄 【 】	学級名 年 組						
障害名・主訴		手 帳	無 ・ 有【 】					
住 所	美唄市 							
生活の様子	得意なこと 好きなこと							
	苦手なこと							
本人・保護 者の願い	本 人							
	保護者							
合理的配慮								
長期目標 (期間：3 年)								
関係機関と の連携								
その他								
作成者	担任： 特別支援教育コーディネーター：							

参考資料 学校における合理的配慮の3観点11項目

観点① 教育内容・方法

①—1 教育内容

①—1—1 学習上または生活上の困難を改善・克服するための配慮

①—1—2 学習内容の変更・調整

①—2 教育方法

①—2—1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

①—2—2 学習機会や体験の確保

①—2—3 心理面・健康面の配慮

観点② 支援体制

②—1 専門性のある指導体制の整備

②—2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

②—3 災害時等の支援体制の整備

観点③ 施設・設備

③—1 校内環境のバリアフリー化

③—2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

③—3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

合理的配慮の記載例を参考にしてください。

観点① 教育内容・方法

①—1 教育内容

○ 弱視レンズ等を効果的に活用し、見えにくさを補う。(視覚障害)

○ 服薬の意味と定期的な服薬の必要性の理解等を通して、服薬管理の指導を行う。(病弱)

○ 動作等を利用した意味理解や繰り返しの練習を通して、学習内容の習得の困難さを補う。(自閉症・情緒障害)

○ 学習内容の焦点化を図ったり、生活上必要な言葉等の意味を確実に理解できるようにしたりし、理解の程度に応じた学習内容の変更・調整を行う。(知的障害)

①—2 教育方法

○ 座席の位置や話者の音量調整等の聞こえにくさに応じた聴覚的な情報・環境の提供を図る。(聴覚障害)

○ 文字盤や音声出力型の機器等の活用により、コミュニケーションを支援する。(肢体不自由)

○ 拡大文字を用いた資料を扱ったり、振り仮名を付けたりし、文章を読みやすくする。(学習障害)

○ 成功体験を増やし、友達から認められる機会を増やす。(注意欠陥多動性障害)

○ 図や写真を活用した日課表や活動予定表等を活用し、見通しをもって活動できるように指導する。(知的障害)

観点② 支援体制

○ 主治医や保護者から体調把握のための情報に基づき、急な病状の変化に対応できるよう校内体制を整備する。(病弱)

○ 構音障がい、吃音等や本人の心情理解について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。(言語障害)

○ 特別支援学校のセンター的機能を活用したり、てんかん等への対応のために、必要に応じて医療機関と連携を図ったりする。(知的障害)

観点③ 施設・設備

○ 放送等の音声情報を視覚的に受容することができる校内環境を整備する。(聴覚障害)

○ ブラインド等、光の調整を可能にする設備により、見えやすい環境を整備する。(視覚障害)

○ クールダウン等のための場所を確保するとともに、感覚の過敏さに対応した校内環境を整備する。(自閉症・情緒障害)

○ 車いす、担架、非常用電源等、災害等発生後の必要な物品を整備する。(肢体不自由)

【氏名・住所・連絡先等】

生徒	ふりがな	平成 年 月 日生	男 女
住所	〒 —		
	TEL () —		

【身体の状況】

障がい名			療育手帳	有 () 無
			身障者手帳	有 () 無
知能・発達検査 (最新のもの)	実施機関			
	検査名			
	検査日			
	検査結果 (IQ等)			
アレルギーや疾患 の状況	アレルギー、疾患名			
	服薬の状況			
	処置方法等			
	生活、運動の制限			
服薬の状況 (有・無)	薬の種類 (何のためのものか)	形状 (錠・散・その他)	回数	
	・			
	・			
	・			

【現在行っている治療・相談】

治療・相談機関	いつから	治療・相談内容	現在の通院状況
			年・月・週 回
			年・月・週 回
			年・月・週 回

【生徒の様子】

好きなこと 得意なこと	
嫌いなこと 苦手なこと	
進路の希望	

【学習、行動の様子】

基本的な生活習慣 (身辺処理・生活能力)		
運動・動作		利き手(右・左)
言語・ コミュニケーション		
対人関係・社会性 (集団行動等)		
認知・理解 (文字・金銭・時計等)		
その他		

【関係機関との連携】

相談事業所(担当者名)	
福祉サービス利用状況 (放デイ・SS等)	
各種手帳 次回更新日	

【その他】

合理的配慮	
特記事項	

氏名	美唄 太郎	学年	3年 O組	作成者	東 花子
----	-------	----	-------	-----	------

個別の教育支援計画（長期目標）	○見通しを持って、考え、理解し、行動できるようにする。 ○基礎的な学習（特に、数の扱い、漢字）を身に付け、日常生活に生かすことができる。	短期目標	○やりたくないこと、苦手なことにも挑戦する。 ○学校で取り組める活動や本生徒ができることから成功体験を増やしていく。 ○学校生活で、いろいろな話や活動を楽しむことができる。
-----------------	---	------	--

教科・領域等	学習内容・目標	指導方法・支援の手立て	評価（変容・課題）
日常生活の指導	○身辺処理に関すること（衣服の着脱、食事、清潔、健康、安全等）の意識を強く持たせる。 ○集団生活に関すること（あいさつ、きまり、時間、美化、清掃、役割、責任感、提出、等）	○登下校時、朝の会（日誌記入）、帰りの会、給食、清掃、休憩時間等において、年間を通して指導する。 ○各教科・領域と関連付けて適宜指導する。	
生活単元学習	○教科の学習で習得した知識や技能等を生活の中で使うことができる。 ○活動の目的と自分の役割を理解し、責任をもって主体的に活動することができる。 ○生活上の望ましい習慣や態度を身に付ける。	○新しい学級づくり ○地域の地域の体験施設や公共施設を活用した学習（遠足、スキー）、地元を離れた場所での社会体験をさせる。 ○学校祭での作品展の準備をする。	
自立活動	○【自己理解と行動の調整】活動や作業において、失敗や困難に対する行動のためらいがちなにならないように、乗り越えようとする姿勢を培う。 ○事実や自分の感じたことを相手に伝える。	○本人の得意な活動、本人が容易にできる体験的な活動を設定し、成就感を味わうことができるようにして、徐々に自信を高めたりさせる。 ○聞き手に分かりやすく、具体的な文章表現で話すよう働きかける。	
作業学習	○お互いに協力し時間いっぱい集中して、失敗を恐れずに作業に取り組むことができる。 ○作物・制作物（展示物）の制作を通して、働くことの喜びや大変さを感じ、よいものを作ろうとする意欲を持つことができる。	○学級菜園で苗や種の植え付け方、土の量、土づくりなど、丁寧に手順を示す。 ○できばえを自分で確認できるように見本を準備しておく。 ○指示の工夫や作業を繰り返し行わせる。	
国語	○小学校1・2年生の漢字の「読み・書き」ができる。 ○文字を丁寧に書く。 ○文章表現を意識しながら作文を書く。	○種類の違う問題を繰り返し練習し、定着を図る。 ○文字の書き方の練習を行い、止め・はね・バランスなどに気をつけて書くよう指導。 ○行書の振り返り作文を書かせる。	
社会	○都道府県名やその特色に関わる知識を増やす。 ○調べ学習や経験を通して、知識を増やして自分で活動できる範囲を広げる。 ○身のまわりの生活や地理に関わる知識を深める。	○ゲーム感覚で都道府県名の位置や特色の学習を深める。 ○校外学習や旅行的行事における見学場所やその周辺、公共交通機関などを調べ、活用方法を学習させる。	

数学	<ul style="list-style-type: none"> ○九九、加法、減法 ○お金の計算を学習し、買い物で支払いができるようにする。 ○時計の読み方を理解し、時間の流れを理解し、時間に気を配りながら生活できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題集やプリントを活用し、繰り返し取り組ませ、定着を図る。 ○学校生活、実生活の中で、関係するタイミングで実生活に生かせる指導を行う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○日光生活に関係の深い自然の事物に興味を広げ、理解することができる。 ○身近な生き物について興味関心を広げ、育てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級菜園で栽培している野菜、花などの名称を調べたり、草取りや水やり、収穫を行い、作物の成長過程を学ばせる。 ○生き物の生態を調べ、育てる難しさや喜びを感じさせる。 	
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○月日、数字、曜日、季節、あいさつ、お礼、自分の名前等、簡単な表現に関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○しっかり大きな声で発音し、実際に交流し定着を図る。 ○アルファベットを使ったゲームなどを通して、興味関心を持たせ、コミュニケーションを図る。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の教育課程を基本とする。 ○アルトリコーダーや合唱に取り組み、音楽の楽しさを感じる。 ○歌の練習では、音と歌詞を覚え、声に出して参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の指導方法によるが、やることを復唱させて、理解できているか確認しながら参加させる。 ○友達や教員、CDなどによる歌をより多く聴く機会を設定する。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の教育課程を基本とする。 ○早い進度、授業の流れに粘り強くついていく。 ○作品作りの手順を理解し、準備や作業工程、デザインを自分で考えて作品を製作する。(デッサン、粘土、・・・、・・・) 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の指導方法によるが、やることを復唱させて、理解できているか確認しながら参加させる。 ○自分で考えながら作業を進めるように促す。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の教育課程を基本とする。 ○協力学級又は特別支援学級での授業において、学級の仲間と取り組むことで、技能の取得とともに、協調性・協力を意識し、運動の楽しさを感じる。(陸上、球技、ダンス等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の指導方法によるが、反復練習で技術向上を実感させ、自信につなげる。 ○個人技能の向上とチームの一員として参加させることにより、集団やチームとして活動する楽しさを味わわせる。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の教育課程を基本とする。 ○望ましい生活習慣や集団生活の基本を身に付けるとともに、友達とのよりよい関わり方を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の指導方法によるが、内容や生徒の実態に応じて、個別指導を行う。 ○単元内容を復唱させながら、自分の考えを持たせる。 ○教育活動すべての場面を通して指導する。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級の教育課程を基本とする。 ○周りとは協力しながら参加し、自分の役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○宿泊学習や職場体験 ○調べたことや体験したことの自分の意見、感想をまとめることができるようにさせる。 ○自分の担当を確認させ、責任をもってやり遂げられるように支援する。 	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○協力学級と連携し、交流活動の範囲を広げる。 ○特別支援学級の他学年の友達との交流の輪を広げる。 ○学級での役割を果たし、話し合いや協力をしながら、学級作りをしていく。 ○行事に主体的に参加し、指示や説明を聞いて理解し、自分で動く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いでは発言する機会を設け、自分も考え参加するという意識を持たせる。 ○事前の説明をきちんと行い、内容や持ち物、動き、参加する心構えを確認する。 ○同じチームやグループの人たちと一緒に活動し、話や指示を聞いたり答えたりさせる。 	

長期目標、短期目標の評価			
個別の教育支援 計画（長期目標）	○見通しを持って、考え、理解し、行動できるようにする。 ○基礎的な学習（特に、数の扱い、漢字）を身に付け、日常生活に生かすことができる。	短期目標	○やりたくないこと、苦手なことにも挑戦する。 ○学校で取り組める活動や本生徒ができることから成功体験を増やしていく。 ○学校生活で、いろいろな話や活動を楽しむことができる。
長期目標 評価	※長期目標の達成度合いを記入	短期目標 評価	※長期目標の達成度合いを記入
次年度へ向けて（方向性）			
※長期目標、短期目標の達成度合いから、次年度の方向性を記入。			